

「強制動員真相究明ネットワーク」の歩みー2005年～2024年ー

(『むくげ通信』323号、2024. 3. 31より)

飛田雄一

●ネットワークの結成

強制動員真相究明ネットワーク（以下、ネットワーク）、2005年に結成された。事務局は神戸学生青年センター内、私も共同代表をしている。¹

2004年、韓国で日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会が作られた。韓国政府の委員会として強制動員被害者からの申告を受け付け、その実態を調査するのである。

この委員会は、「日帝強占下強制動員被害真相糾明に関する特別法」に基づいて作られた。同法は1条にその目的について「日帝強占下強制動員被害の真相を糾明して、歴史の真実を明らかにすることを目的とする」と定められている。2条ではその対象等について以下のように定められている。

1. 「日帝強占下強制動員被害」とは、満州事変から太平洋戦争に至る時期に日帝に依って強制動員された軍人・軍属・労務者・軍慰安婦等の生活を強要された者が被った生命・人体・財産等の被害を言う。

2. 「犠牲者」とは、日帝強占下強制労働に因って死亡したり行方不明になった者あるいは後遺障害が残っている者で、第3条2項第4号の規定に依り、日帝強占下強制動員被害犠牲者と決定された者を言う。

3. 「遺族」とは、犠牲者の配偶者（事実上の配偶者を含む）及び直系の尊・卑属を言う。ただし、配偶者及び尊・卑属がない場合には兄弟姉妹を言う。（韓国では「糾明」の用語が使われているが日本語では「究明」を用いている。日本語では発音が同じである）

韓国の委員会の活動に対応して本来であれば日本政府内に同様の委員会が作られるべきだが、それが望めない状況の下で、日本の市民サイドで作られたのが「強制動員真相究明ネットワーク」である。²

そのきっかけは福留範昭さんだ。韓国で日本語教師をしていた福留さんは、韓国で戦後補償運動に通訳として、また市民活動家として積極的に活動されていた。その後、帰国してネットワーク設立のために奔走した。共同代表に内海愛子、上杉

聡、飛田の承諾を得て、2005年7月18日、東京韓国YMCAでの設立総会にこぎつけた。そしてその初代事務局長としてネットワークを引っばっていった。韓国の市民運動家が「福留さんの通訳には力がある」と言っていたのが記憶に残っている。

設立総会では、記念講演「強制動員に関する資料・名簿について」山田昭次、「企業の強制動員労働者について」古庄正氏、韓国より崔鳳泰、李熙子のあいさつがあった。

福留さんは、2010年5月、亡くなられた。本当に残念だ。ニュース4号に事務局の川瀬俊治が、追悼文を書いている。³ ネットワークの事務局長は、その後、小林久公、中田光信が引き継いでいる。

●遺骨問題へのとりくみ

ネットワークでは、以下の活動を進めることとした。

①日本政府に、政府および公的機関、そして企業の保有する強制動員関係の資料の提示を促進することを求める活動をする。②日本における強制動員の真相究明のための活動を通し、日本の世論が強制動員問題に関心を向けるようにする。③韓国で構成される被害者団体を含む「市民ネット」と連帯し、交流や可能な行事を行う。④日本における真相究明法である「恒久平和調査局設置法案」の制定運動に協力する。⑤ネットワークで集約された資料を保管・展示する空間を作る。

ネットワークは、当初強制動員被害者とりわけ強制動員労働者の遺骨問題を中心に活動を始めた。

遺骨問題については、2004年12月鹿児島で行われた日韓首脳会談で、韓国盧武鉉大統領が小泉首相に強制動員労働者の遺骨確認および奉還を要求したことに端を発している。日本政府も宗教界からの働きかけなどを受け、調査を進めることになった。ニュース1号（2006.2）に、「宗教界の遺骨問題への取り組み」（上杉 聡）、「遺族に沈黙を強いる靖国」内海愛子の記事がある。

2006年7月29日には東京でネットワークも参加した実行委員会が「韓国・朝鮮の遺族とと

もに遺骨問題の解決へ」全国集会を開催した。ニュース2号(2007.3)にそのレポートがある。また『むくげ通信』224号(2007.9)に全国集会後のフィールドワークについてレポートしている。

この過程のなかで、岐阜県飛騨市神岡町の遺骨の所在が明らかとなり遺族も判明した。⁴また、2008年5月26日にはネットワークより当時の厚生労働大臣舛添要一氏に「今後の祐天寺の遺骨返還に関する要望書」をだしている。

●「全国研究集会」の開催

ネットワークの活動の中でネットワークの強みをいかして各地で開催される「全国研究集会」が重要である。開催日時、会場等について、以下のとおりである。講演者、報告者、証言者について名前のみ記すことにする。

- ・ 第1回、2006年11月3日、福岡、花房俊雄、塚崎昌之、上杉聡、横川輝雄、守屋敬彦、樋口雄一、鄭惠瓊、外村大
- ・ 第2回、2007年11月24～25日、東京(中央大学駿河台記念館)、塚崎昌之、表永洙、内海愛子、北原道子、青柳敦子、御園生光治、小林知子、下嶋義輔、花房俊雄、工藤英勝、竹内康人、横川輝雄、守屋敬彦、内海隆男、小林久公、広瀬貞三、李淵植
- ・ 第3回、2009年7月25～26日、神戸、山本晴太、金慶南、小林久公、大井田孝、青柳敦子、市場淳子、中田光信、吉澤文寿、嚴敏俊
- ・ 第4回、2011年5月28～29日、神戸、樋口雄一、鄭惠瓊、塚崎昌之、守屋敬彦、庵途由香
- ・ 第5回、2012年4月7日、東京(東大駒場)、外村大、張完翼、増田好純、小林久公、矢野秀喜、竹内康人
- ・ 第6回、2013年3月30日、東京(東大駒場)、金廣烈、竹内康人、太田修、高野眞幸、河かおる、原英章、矢野秀喜、青柳敦子、梁澄子、沈在昱、内岡貞雄、殿平善彦
- ・ 第7回、2014年3月15～16日、京都(立命館大)、山本晴太、板垣竜太、崔姫順、塩川正隆、李一満、高橋信、ざざ丸会、小林久公、川瀬俊治、藤井保仁(本通信に飛田のレポートがある。⁵)

- ・ 第8回、2015年3月21日、山口長生炭鋹、小畑太作、具志堅隆松、鄭祐宗、広瀬貞三、内海隆男、外村大、渡辺美奈、川瀬俊治(本通信に飛田レポートがある。⁶)
- ・ 第9回、2016年3月5～6日、名古屋、小出裕、金敏喆、竹内康人、廣瀬貞三、兼崎暉、山本直好(本通信に飛田レポート、⁷)
- ・ 第10回、2017年3月25～26日、長野県、水野直樹、原英章、鄭惠瓊、庵途由香、川瀬俊治、河かおる、外村大、山本直好(本通信の飛田レポート⁸)
- ・ 第11回、2018年3月17～18日、沖縄、石原昌家、塚崎昌之、渡辺素子、竹内康人、沖本富貴子、古賀徳子、具志堅隆松、若手平和ガイドの会(本通信に飛田レポート⁹)
- ・ 第12回、2019年4月6～7日、群馬高崎、石塚久則、竹内康人、山本直好、外村大、徐根植、川瀬俊治、井上洋子、北原高子
- ・ 第13回、第13回2021年2月20日「語りつぐ強制連行の歴史－富山(北陸)編」(ZOOM)、松浦晴芳、堀江節子、中川美由紀、角三外弘、下嶋義輔、井上洋子、川瀬俊治、竹内康人
- ・ 第14回、「強制連行否定を問う－佐渡鋹山の遺産価値を深めるために」2022年8月27日～28日/新潟研究集会、佐渡フィールドワーク、広瀬貞三、木村昭雄、藤石貴代、竹内康人、キム・スンウン、竹田和夫(本通信に飛田レポート¹⁰)
- ・ 第15回、産業遺産と強制労働(宇都宮)&足尾銅山フィールドワーク、2023年9月30日～10月1日、竹内康人、中田光信、山内弘恵、殿平善彦、金英丸、上田慶司、木村章子

全国研究集会以外に、以下のような集会等が開催されている。

- ・ 2010年5月17日、18日、福留範昭さんを偲ぶ筑豊フィールドワーク、(本通信に飛田のレポート¹¹)
- ・ 「明治産業革命遺産」と強制労働・長崎集会、2018年6月23日、外村大、竹内康人、平野伸人、新海智広、城野俊行、兼崎暉、(本通信に飛田レポート¹²)
- ・ 明治産業革命遺産における強制動員の歴史を

伝える、2020年10月18日(日)ZOOM、竹内康人、中田光信、小林久公、キム・スンウン、新海智弘、平野伸人、城野俊行

- ・ 「明治産業革命遺産の展示を問う!」ZOOMシンポジウム 2021年5月22日
- ・ 2021年9月18日 「問われる世界産業遺産情報センター、7.22 ユネスコ決議とは?」中田光信、竹内康人、小林久公、キム・スンウン、有田光希、平野伸人
- ・ 2021年10月~22年5月、「強制動員 ZOOM 特別講座」を開催。竹内康人、広瀬貞三、木村嘉代子、デビット・パーマー、ドゥロー・アーゴタ、ニコライ・ヨンセンほか
- ・ 2023年3月、篠山フィールドワーク (本通信に飛田レポート¹³)
- ・ 2023年7月、宇奈月黒部フィールドワーク (本通信に飛田レポート¹⁴)

●ニュース・書籍の発行

ネットワークでは不定期にニュースを発行している。号数、発行日は以下のとおりである。ニュースは、ネットワークホームページ

<https://ksyc.jp/sinsou-net/> でバックナンバーをみることができる。

- ・ 1号、2006年2月12日
- ・ 2号。2007年7月3日 (「韓国・朝鮮の遺族とともに」東京集会等)
- ・ 3号、2008年6月25日 (韓国「望郷の丘」での祐天寺の遺骨の奉還追悼式等)
- ・ 4号、2011年5月4日 (福留範昭さん追悼ほか)
- ・ 5号、2012年7月20日 (第5回研究集会、韓国大法院判決など)
- ・ 6号、2014年3月15日 (第6回研究集会報告など)
- ・ 7号、2015年7月5日 (新共同代表・庵途由香挨拶、「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録問題についてなど)
- ・ 8号、2016年10月6日 (韓国日帝強占下強制動員被害真相究明委員会の解散、ネットワークの継続、第9回名古屋集会報告など)
- ・ 9号、2017年6月19日 (第10回松本集会、戦没者遺骨を家族の元へ6・22沖縄集会報告など)

- ・ 10号、2018年2月2日 (第11回沖縄集会案内、民族問題研究所と共同発行『「明治日本の産業革命遺産」と強制労働』など)
- ・ 11号、2018年5月26日 (沖縄集会報告、ユネスコ、イコモスへの意見書)
- ・ 12号、2018年11月29日 (長崎集会報告、植民地歴史博物館オープンなど)
- ・ 13号、2019年2月18日 (韓国大法院判決特集)
- ・ 14号、2019年7月8日 (第12回高崎集会、加藤康子内閣参与が理事を務める産業遺産情報センターと政府の世界遺産登録推進室との黒い関係ほか)
- ・ 15号、2019年12月21日 (解放74年、強制動員問題の過去、現在、未来—強制動員問題の解決のための国際会議、開催ほか)
- ・ 16号、2020年3月16日 (歴史修正主義者の国際連帯—「反日種族主義」が投げかけるものほか)
- ・ 17号、2020年9月30日 (「明治日本の産業革命遺産」特集号)
- ・ 18号、2021年4月9日 (「明治産業革命遺産」関連資料など)
- ・ 19号、2021年11月17日 (<特集>「第44回ユネスコ世界遺産委員会決議」)
- ・ 20号、2022年6月2日 (「歴史認識問題研究会」の歴史認識の問題など)
- ・ 21号、2023年1月20日 (追悼・広瀬貞三さんほか)
- ・ 22号、2023年5月29日 (佐渡鉱山、韓国大法院判決など)
- ・ 23号、2023年11月12日 (富山・黒部フィールドワーク特集など)

●声明書の発表、要望書の提出

ネットワークでは時々声明を発表している。以下、その発表日、タイトルを記録しておく。いずれもホームページでみることができる。

- ・ 2015.6.15 「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録問題についての声明、朝鮮人強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動との共同声明
- ・ 2018.11.1 韓国大法院の判決を受けとめ、日本政府と企業は戦時の朝鮮人強制動員問題の

包括的解決を!

- ・ 2021.2.6 内閣府・産業遺産情報センターの展示の改善と産業遺産国民会議によるセンターの運営委託の中止などを求める要請書
- ・ 2021.6.25 「第 44 回ユネスコ世界遺産委員会開催に当たっての声明産業遺産情報センターの展示に戦時強制労働の記載を求めます」
- ・ 2021.7.14 明治産業革命遺産に対するユネスコ世界遺産委員会の勧告を支持します、(韓国) 民族問題研究所、植民地歴史博物館、太平洋戦争被害者補償推進協議会、(日本) 強制動員問題解決と過去清算のための共同行動との共同声明
- ・ 2022.5.9 「佐渡島の金山」世界遺産推薦内容の改訂を求める声明
- ・ 2022.9.3 「産業遺産情報センター」の「センター長」加藤康子氏の解任を求める要請書
- ・ 2023.1.20 強制動員被害者の尊厳の回復にむけ、日本政府と企業は強制動員の認知を!
- ・ 3月7日声明を公表。本文 韓国語 2024年2月群馬強制連行石碑撤去について、要望書、声明
- ・ 2023.3.4 韓国政府の財団肩代わり策は被害者の尊厳回復にはならない! 日本政府は強制動員を認知し、真相究明と包括的な解決をすすめよ!
- ・ 2024.1.26 「記憶 反省 そして友好」の碑撤去の代執行の中止を求める声明
- ・ 2024.3.4 ネットワークが共同声明「強制動員問題の解決へ 日本政府は強制労働を認めよ!日本企業は賠償に応じよ!」をよびかけ、38団体で発表

この声明等についても、ネットワークホームページ <https://www.ksyc.jp/sinsou-net/> で見ることができる。

●ネットワークの冊子、単行本

またネットワークが、発行した書籍／冊子に以下のものがある。

- ・ 守屋敬彦ほか『朝鮮人強制労働動員実態調査報告書—北海道住友友鴻之舞鉱山、韓国聞き取り調査、2010年10月』2012年3月
- ・ 『BC級バタバア裁判・スマラン事件資料』

(2014年8月)

- ・ 『福留範昭さんの全軌跡—戦後70年、日韓・過去問題の解決にかけた—』2015年5月
- ・ 『朝鮮人強制動員 Q&A』2016年10月
- ・ 『日韓市民による世界遺産ガイドブック—「明治日本の産業革命遺産」と強制労働』2017年11月
- ・ 『日韓市民共同調査報告書—佐渡鉱山・朝鮮人強制労働』2022年10月、以上2冊は民族問題研究所(韓国)と共同編集。
ほかに、全国研究集会の資料集、報告書を発行している。ホームページをごらんいただきたい。(これらの全資料について、順次整理して国会図書館に納品するようにしている。)

●韓国での動き、出版活動

韓国では、先に述べたように2004年3月5日、「日帝強占下強制動員被害真相究明等に関する特別法」が制定された。それを受けて、同年11月10日、「日帝強占下強制動員被害真相究明委員会」が発足した。

2007年12月10日、韓国で「太平洋戦争前後国外強制動員犠牲者支援に関する法律」が制定され、翌2008年6月10日、「太平洋戦争前後国外強制動員犠牲者支援委員会」が設立されて犠牲者に対して「慰労金」の支給が開始された。

この二つの委員会は、2010年3月22日に制定された「対日抗争期強制動員被害者調査及び国外強制動員犠牲者等支援に関する特別法」により統合され、「対日抗争期強制動員被害者調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会」が発足した。

(同年4月20日)そして同委員会は、強制動員の真相究明と「慰労金」支給業務が続けられた。

しかし、2015年12月31日をもってこの「対日抗争期強制動員被害者調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会」の活動は終了し、日帝強制動員被害者支援財団に事業が引き継がれて現在にいたっている。

●韓国における日本語資料の発刊

日帝強占下強制動員被害真相究明委員会の出版物は多い。以下に一覧を掲げる。財団発行の12冊目『逃げるって? 憲兵が銃を持って監視しているのに』は、堀内稔、信長たか子が翻訳を担当し

た。¹⁵

▼<対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会発行の書籍>発行所／編集人：大韓民国政府・国務総理所属対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会

1. 「日本の長崎県・崎戸町「埋火葬許可証」記載朝鮮人死亡者問題の真相調査」A5 65 頁 2013.3 (韓国語版 2011 年) 500 円
2. 「シベリアに抑留された朝鮮人捕虜の問題に関する真相調査－中国東北部に強制動員された朝鮮人を中心に」A5 69 頁 2013.3 (韓国語版 2011 年) 500 円
3. 「広島・長崎 朝鮮人の原爆被害に関する真相調査－強制動員された朝鮮人労務者を中心に」A5 103 頁 2015.6 (韓国語版 2011 年) 500 円
4. 「日本の長生炭鉱水没事故に関する真相調査」A5 260 頁 2015.12 (韓国語版 2007 年) 1000 円
5. 「委員会活動報告書」変形版 151 頁 2016 年 (韓国語版 2016 年) 1000 円※在庫なし

▼<日帝強制動員被害者支援財団発行の書籍>日帝強占下強制動員被害真相究明委員会、対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会編、日帝強制動員被害者支援財団・日本語翻訳協力委員会訳

「日帝強制動員被害者支援財団翻訳叢書」(以下、「翻訳叢書」)／企画・発行：日帝強制動員被害者支援財団 ※価格は翻訳支援金(送料とも)

※日帝強制動員被害者支援財団のホームページに

1～12 の PDF ファイルがアップされている。

- <https://fomo.or.kr/kor/article/ATCLfce52d0eb>
1. 翻訳叢書①口述記録集『ポンポン船に乗って帰る途中、海の幽霊になるところだったよ』A5 269 頁 2019.12 (韓国語版 2006 年) 1000 円
 2. 翻訳叢書②口述記録集『朝鮮という私たちの国があったのだ』A5 341 頁 2012.12 (韓国語版 2006 年) 1000 円
 3. 翻訳叢書③報告書『朝鮮人 BC 級戦犯に対する調査報告』B5 89 頁 2019.12 (韓国語版 2011 年) 500 円
 4. 翻訳叢書④『ハワイ捕虜収容所における韓人捕虜に関する調査』B5 83 頁 2019.12 (韓国語版 2008 年) 500 円

5. 翻訳叢書⑤口述記録集『我が身に刻まれた八月 広島・長崎強制動員被害者の原爆体験』A5 601 頁 2020.12 (韓国語版 2009 年) 1000 円
6. 翻訳叢書⑥口述記録集『聞こえてる？日本軍「慰安婦」12 人の少女の物語』A5 414 頁 2020.12 (韓国語版 2013 年) 1000 円
7. 翻訳叢書⑦図録『写真で見る強制動員の話－日本・北海道編－』B5 変形版 182 頁 2020.12 (韓国語版 2009 年) 1000 円 ※在庫なし
8. 翻訳叢書⑧報告書『端島炭鉱での強制動員朝鮮人死亡者実態調査 (1939～1941)』A5 158 頁 2020.12 (韓国語版 2009 年) 500 円
9. 翻訳叢書⑨報告書『南洋群島への朝鮮人労務者強制動員実態調査』A5 105 頁 2020.12 (韓国語版 2012 年) 500 円
10. 翻訳叢書⑩報告書『日本地域の炭鉱山における朝鮮人強制動員の実態－三菱鉱業(株)佐渡鉱山を中心に』B5 180 頁 2021.12 (韓国語版 2019 年) 500 円
11. 翻訳叢書⑪報告書『靖国神社「韓国人」合祀経緯・合祀者名簿の真相調査』B5 91 頁 2021.12 (韓国語版 2007 年) 500 円
12. 翻訳叢書⑫口述記録集『逃げるって？憲兵が銃を持って監視しているのに』A5 327 頁 2021.12 (韓国語版 2006 年) 1000 円
13. 翻訳叢書⑬報告書『太平丸事件の調査』B5 115 頁 2022.11 (韓国語版 2006 年) 500 円
14. 翻訳叢書⑭報告書『「朝鮮女子勤労挺身隊」労務動員の調査』B5 223 頁 2022.11 (韓国語版 2008 年) 500 円
15. 翻訳叢書⑮報告書『北海道東川町江卸発電所強制動員被害真相調査』B5 146 頁 2022.11 (韓国語版 2011 年) 500 円
16. 翻訳叢書⑯口述記録集『タンコ(炭鉱)だって？』A5 336 頁 2022.11 (韓国語版 2005 年) 1000 円
17. 翻訳叢書⑰報告書『強制動員名簿改題集 2』B5 152 頁 2022.11 (韓国語版 2013 年) 500 円
18. 翻訳叢書⑱口述記録集『アホッモリ(青森)越えて北海道へ－北海道強制動員被害口述集』A5 464 頁 2023.12 (韓国語版 2009 年) 1000 円
19. 翻訳叢書⑲報告書報告書『高島炭鉱での朝鮮人強制動員の実態』B5 89 頁 2023.12 (韓国語版 2008 年) 500 円

語版 2019 年) 500 円

20. 翻訳叢書②〇報告書『南洋諸島ミリ環礁・強制動員朝鮮人虐殺の真相調査』B5 44 頁 2023.12 (韓国語版 2011 年) 500 円

21. 翻訳叢書(21)『太平洋戦争実記—沖縄戦徴用軍夫張尹満の手記』A5 128 頁 2023.12 (韓国語版 2019 年) 500 円

22. 翻訳叢書(22)報告書『朝鮮人学徒志願兵制度と動員部隊の実態調査』B5 160 頁 2023.12 (韓国語版 2017 年) 500 円

(価格は、ネットワークが配布にあたって翻訳等支援金としていただいているもの。送料込。購入希望者は、末尾の郵便振替で送金のこと)

引き続き出版が計画されており、強制連行・強制労働研究に大きな力を与えてくれるものと思われる。いずれも今後の強制連行・強制労働研究に大切な資料となるものだ。

●日韓市民の交流／連帯

日本では政府、マスコミが「徴用工」判決を契機として、韓国への敵対意識を煽るようなキャンペーンを繰り返している。

しかし一方では、日韓の市民の交流／連帯は途切れることなく継続している。強制動員ネットワークワークも、引き続き活動を継続していきたい。

ネットワークには、年会費 3000 円を郵便振替 <00930-9-297182 真相究明ネット>に送金することによって加入することができる。また会員は、情報交換の場としてメーリングリストに加入することができる。

以上、約 20 年のネットワーク歩みを記した。味気のない記録になってしまったが、今後の活動に役立つことを願っている。

¹ 本稿は、立命館大学コリア研究センター『コリア研究』10号(2020年3月)に掲載した飛田「「強制動員真相究明ネットワーク」の歩み」を加筆したものである。

² 『むくげ通信』210号(2005年5月29日)に飛田が「研究レポート・韓国強制動員真相究明法、その後」を書いている。以下、『むくげ通信』の飛田レポートは、むくげ通信総目録

<http://ksyc.jp/mukuge/tuusinn.html> から PDF ファイルをダウンロードすることができる。また、2005年11月27日、対話で平和を!日朝関係を考える神戸ネットワーク主催の「東北アジアの平和を考える講演会—いま、なぜ強制連行の真相究明か?」(内海愛子「戦後処理の枠組み～戦争裁判と賠償を考える～」、飛田雄一「強制連行真相究明運動の展望」)があった。その集会の講演録が発行されている。また『季刊戦争責任研究』51号(2006年春号)、飛田「強制動員真相究明ネットワークの課題」。この号に、ネットワークの川瀬俊治、竹内康人も原稿をよせている。

³ 福留範昭の没後、福留範昭遺稿集編纂委員会が『福留範昭さんの全軌跡—戦後70年-日韓・過去問題の解決にかけた』(2015.5)を発行した。福留は、内海愛子、上杉聰と共著『遺骨の戦後:朝鮮人強制動員と日本』(岩波ブックレット、2007.8)をだしている。

⁴ (『ニュース』2号、2007年7月3日、下島義輔報告参照)

⁵ 『むくげ通信』263号(2014年3月29日)に飛田が「第7回強制動員真相究明ネットワーク全国研究会&フィールドワーク」について書いている。

⁶ 『むくげ通信』269号(2015年3月29日)、飛田「強制動員真相究明ネットワーク宇部研究会と長生

炭鉱フィールドワーク」

⁷ 『むくげ通信』275号(2016年3月27日)、飛田「名古屋強制動員真相究明研究会&フィールドワーク」

⁸ 『むくげ通信』282号(2017年5月28日)、飛田「第10回強制動員真相究明全国研究会 2017.3.25～26 長野県松本市」

⁹ 『むくげ通信』287号(2018年3月24日、飛田「3月の沖縄は、あつかった!—第11回強制動員真相究明全国研究会、などなど—」

¹⁰ 『むくげ通信』314号(2022年9月25日)飛田「強制動員真相究明ネットワーク、新潟研究会、佐渡フィールドワーク」

¹¹ 『むくげ通信』264号(2014年5月25日)、飛田「戦後64年後の奇跡のような朝鮮人死亡者名判明—筑豊朝鮮人強制連行フィールドワークより—」

¹² 『むくげ通信』289号(2018年7月29日)、飛田「<「明治産業革命遺産」と強制労働>長崎集会」

¹³ 『むくげ通信』317号(2023年3月26日)、飛田「デカンショの町、丹波篠山にコリアンの足跡をたずねるフィールドワーク」

¹⁴ 『むくげ通信』319号(2023年7月30日)、飛田「宇奈月トロッコ電車に乗りました—真相究明ネット、黒部・宇奈月フィールドワーク—」

¹⁵ 信長たか子が、『むくげ通信』312号(2022年5月29日)に、『逃げるって? 憲兵が銃を持って監視しているのに』の翻訳にかかわって」を書いている。また飛田が同通信311号(2022年3月27日)にこの本の出版についてふれ、財団の出版活動について紹介している。